

農林水産業が持続的に発展するように支援します

6月24日の日本公庫定時株主総会において、役員の異動がありました。農林水産事業本部長については、倉重泰彦が退任し、常葉光郎が就任いたしましたので、読者の皆さまへごあいさつ申し上げます。

この度、日本政策金融公庫農林水産事業本部長を拝命した常葉でございます。日ごろより日本公庫へのご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

日本公庫農林水産事業は、食料の安定供給の確保や農林水産業の持続的かつ健全な発展といった国の施策に沿って、農林漁業・食品産業に携わる皆さまの経営発展の支援や自然災害などの影響に対するセーフティネット機能の発揮のため、長期事業資金の融資などのご支援に取り組んでおります。

分野別では、農業分野においては経営環境の変化に対応した、耕畜連携やスマート農業技術を活用した生産性の向上などの持続可能な経営への転換の取組みに加え、

デジタル化、海外需要の取込みなどの新たな経営展開や、新たに農業を始める方の取組みを、林業分野においては国産材の需要拡大や安定的・効率的な供給体制の構築などの森林資源の循環利用に向けた取組みを、漁業分野においては漁船漁業の構造改革やマーケット

農業技術活用促進資金が創設され、スマート農業技術の開発・供給に取り組み方へのご融資が可能となりました。

お客さまのご支援に当たっては、経営の現状と課題を把握・共有し、国産農林水産物・食品の商談会「アグリフードEXPO」による販路



常葉 光郎

代表取締役専務取締役
(農林水産事業本部長)

イン型養殖業の推進などの水産資源の変動への適応や省力化などに向けた取組みを、加工流通分野においては国産原材料の取扱量増加や事業の高度化・合理化などの食料システムの持続性の確保に向けた取組みを支援しております。また、2024年10月にはスマート

拡大支援など、多様な手法を組み合わせ、関係機関や専門家とも連携しながら、課題の解決支援・フォローアップに取り組んでおります。日本公庫の会員専用インターネットサービスである「日本公庫ダイレクト」や借入相談・申込のオンライン手続き、「日本公庫電子

契約サービス」の利用促進など、政府の推進するデジタル化施策にも積極的に取り組みながら、高度化かつ多様化するお客さまの経営課題にお応えするため、海外展開支援、販路拡大支援、事業承継支援、事業再生支援などに一層注力し、お客さまの経営発展に向けた課題の解決に取り組んでまいります。これからも皆さまの持続可能な経営への転換をご支援させていただくとともに、お客さまの未来をともに考え、民間金融機関をはじめ関係する皆さまとの連携を一層密にしながら、農林漁業・食品産業の成長と持続的発展に貢献できるように努めてまいります。

●経歴

- 1993年4月 農林水産省入省
- 2020年8月 大臣官房広報評価課長
- 2020年7月 経済産業省大臣官房審議官兼貿易経済協力局付
- 24年7月 農林水産省輸出・国際局付兼内閣事務官(内閣官房内閣審議官)命内閣官房TTP等政府対策本部審議官
- 25年6月 現職

「AFCフォーラム読者アンケート」ご協力をお願い

日ごろより、弊誌「AFCフォーラム」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

AFCフォーラムは、日本政策金融公庫の機関誌として、農林水産業や食品産業の皆さまのお取り組みなどをわかりやすくタイムリーに発信することをめざしております。

今般、より充実した誌面作りのためアンケートを実施いたしますので、忌憚のないご感想やご要望をお聞かせいただければ幸甚に存じます。(アンケート実施期間：令和7年4月1日～8月31日)

設問内容は次のとおりです(所要時間は約5分となります)。ご回答は、右下の二次元コードからお願いします。

アンケートの設問内容

設問1：年齢(選択式) 設問2：職業(選択式)

設問3：AFCフォーラムについて

- (1) AFCフォーラムは役に立ちますか(面白いですか)(選択式)
- (2) (1)のご回答について、そのように感じる理由(自由記載)
- (3) ご興味・ご関心のあるコーナーやよくお読みいただいているコーナー(コーナー名を5つまで選択)
- (4) ページ数や文字数は適切ですか(選択式)
- (5) AFCフォーラムをお読みにする媒体は何ですか(選択式)
- (6) AFCフォーラムが日本公庫ホームページに掲載されていることを知った手段は何ですか(選択式)
- (7) 今後取り上げてほしい企画・テーマやAFCフォーラムに対するご意見・ご感想など(自由記載)

読者アンケート 回答フォーム



日本公庫ホームページからでもご回答いただけます。

<https://www.jfc.go.jp/n/findings/publish.html>

◎お問い合わせ先

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部 情報企画部
Eメール：anjoho@jfc.go.jp

次号予告 夏2号(9月発行)

「耕畜連携、国産飼料の生産基盤強化へ(仮)」

政府は2030年度の飼料自給率34%をめざしている。その一環で推進されるのが、耕種農家と畜産農家が連携する「耕畜連携」だ。輸入飼料依存からの脱却に向けた国産飼料の生産や耕畜連携の取り組みと今後の展望を考える。

編集後記

AFCフォーラム 2025.8 夏1号

■編集

前川 紘輝 細谷 哲郎 宮崎 善幸
大谷 香織 澤田 真理 岩本 悠里
水谷 徳子

■編集協力

金子 弘道

■発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp

■印刷

株式会社DI Palette 東京本部

* 本誌に掲載している記事、写真、図表、データなどをご利用になりたい場合は、事前に当社までご連絡ください。

④今号をもって編集部を離れることになりました。農林漁業・食品産業を取り巻く環境が大きく変化するなか、足元の政策や事業者・団体のお取り組み、考えをわかりやすく、タイムリーにお届けしたい——。この気持ちで小誌の企画・編集に携わってまいりました。ご指導・ご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。(細谷)

④私事ですが、今号をもって編集部を卒業することになりました。AFCフォーラムの制作を通じ、一次産業にまつわるさまざまな知見を深め、自分なりに考える機会を得たことは大きな財産になりました。今後は海外の大学院に進学し、持続的な農業の在り方を研究します。今まで大変お世話になりました。ありがとうございます。(大谷)

④「元気なのは、ゆばのおかげ」と笑顔で話してくださった「農と食の邂逅」の八木幸子さん。講演会でも、元気の源を尋ねられるそうです。その笑顔の裏には、ゆばを広めたい一心で努力を惜しまず、商品開発などに取り組みまれてきた強い信念があります。栄養価の高いゆばを今、手軽にいただけるようになったことに感謝です。(澤田)

④2023年度の食品ロス発生量の推計値が更新、前年度比8万トンの削減となりました。家庭系ロス量も3万トンの削減となり、30年度までの削減目標まであと17万トンの削減。食品の買い出しは無駄なく賢く、全部をおいしくいただくか、と身を引き締まる思いです。生産者、ロスを減らすために尽力くださっている方々に心を寄せて。(水谷)

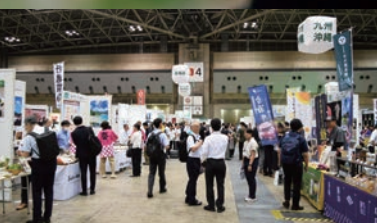
国産にこだわり

農と食

AGRI

FOOD

をつなぎます



国産農林水産物・食品の商談会

第18回

アグリフードEXPO 東京 2025

日時

2025年 8月20日(水)・21日(木)
10:00-17:00 10:00-16:00

ご来場お待ちしております
ぜひ事前登録をお願いします

会場

東京ビッグサイト
東4ホール

主催

日本政策金融公庫

公式ホームページ



お問い合わせ先

「アグリフードEXPO 事務局」エグジビション テクノロジーズ株式会社
〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館8階

TEL 03-5775-2855

FAX 03-5775-2856

E-mail agri@exhibitiontech.com